

二本松市未来戦略会議からの提言素案を一瞥して

当該の素案は、平成の御代に生きてきた優等生が、凡々と椅子に座って世の推移を概観し、望ましきその姿を想起して、命題と思しき項目を羅列提示しているような提案です。

今ある姿・現状とは、全て歴史の必然的な結果であり、その背景に沿わないで取り上げた命題の提示は時として単なる“ないものねだり”となり、現実性に乏しい取り組みとなりかねません。思考過程が真逆というべきで、入口と出口を逆にした発想の大転換が必要ではないでしょうか。

発想の出発点（入口-1）

我々は、今に生きる日本人の抱える下記②示すような問題点の確たる認識を持つことが重要であり、二本松市に係る施策を考える時もこれと対峙出来るものでなければならぬと思います。

- ① 日本国は世界に類を見ない少子高齢化社会である。
寿命 100 歳も夢でない高齢者大国であり、小、中、高校校がどんどん統合される少子国となり、急速に人口が減少している活力減少の危機にある国である。
- ② 東京一極集中の地方都市の消滅の危機にある国である。
地方の過疎化が進み限界集落が増え、町村の消滅の危機が喧伝されている。
- ③ 資本主義の爛熟、グローバル化の進展による経済社会の優勝劣敗が必至となり、生業の安定確保が至難。
- ④ 近代工業化社会の浸透は、高品質安価な品物が大量に供給され、商品寿命は容易に伸びることになり、足るを知る生活感覚の浸透は急速に需要の圧縮を招来し、生業としての物造り業の選択肢が圧縮されている。
- ⑤ IT技術の進展によるAI社会の到来は、より省人化社会となり、いま中国で進んでいる徹底した管理化社会が登場し、息苦しい生活環境になるのは必至。
- ⑥ 世界的にグローバル化の仕組みの中で自国ファーストの機運が醸成されつつある。自立の発想を堅持する習慣をもたねばならない。
- ⑦ 行政の効率化を図るためコンパクトシティーの構築が望まれる

発想の出発点（入口-2）

二本松市の活性化を願ってのその未来を考えるには、“ないものねだり”を掲げるのではなく、“あるもの探し”に徹し、二本松が現有している活力の源泉に成り得る宝物を掘り出して明確に認知することから始めねばならないと思います。したがって二本松でしか適用できないような話となる筈です。（固有名詞を入れ替えればどこでも通用するようなものではない筈です。）

二本松市は、福島県の中央、中通りの交通の要衝に位置する歴史ある城下町であり、鳥瞰すると、市街地の内外に里山が点在し、元桑畑や休耕地も沢山散在する緑豊かな田園都市であり、森に沈む市街地と言っても過言ではありません。これが二本松市の誇る“豊富にあるもの”であり、これこそが活力の源泉にしなければならない偉大な宝物であると、皆が認識しなければならない発想の出発点です。

平成の合併で、二本松の一員となった安達地区、東和地区、岩代地区は、現行の二本松市にとって地区の活性化のための無限の宝が埋蔵されてる地域です。発想の出発点をこの地域におき、知財を集中投下して、点在する宝を有機的に結び付けて、面状の宝に構築するプロジェクトを模索するプロセスの醸成こそが的を得た適切で有効な思考過程を育むものであると認識したい。

このプロセスの仕掛けが有効に稼働すれば、その広がりで交流人口はおのずから増加し、その波及効果として定住人口の維持、増加の道も開けるものと考えます。

「宝探し」「宝の創造」「宝の磨き上げ」に係るヒント

宝探しの基本姿勢

- ◎ 発想の出発点は、城下町エリアの郊外に位置する山野、里山を含む自然味豊かな大地、農作地帯、休耕地、過疎地、等々
- ◎ 一点スポットのお宝開発だけで地域活性化の有効な威力や波及効果を期待し得る確率は一般に高くなく、点在するスポットお宝を魅力ある概念で作り上げた横系でつないで面状構造に育てる配慮が不可欠と考える。

新しい観光資源の創造： 桜花に沈む都市“二本松”の変身創造

- 単なる二本松から千本桜の二本松への変身
- 三保市長の政治理念「市民の市民による市民のための施政」の象徴として、毎年各地区、団体の申請した数の桜木の苗を無償配布して、各地に桜のスポットを作製し、二本松市全域を一大桜の名所にする。
- 随所に桜街道を設け、点在する歴史、文化、産業、飲食、レジャー等の観光スポットを結ぶトレッキング回遊ルートの役割を担わせる。
- 2016年二本松観光協会は、“花さんぽ”と称する45ヶ所の桜の名所のお宝を発掘しておりますが、惜しむは単なる名鑑作成に終始したのではないかと。観光は誘いに容易に呼応できる仕組みを用意しなければならないものである。あくなき執念を持ってルートを探索しなければならないようなデータの提示の観光案内では、スポットとスポットを結ぶ合目的な横系とは言えず、活性化のための資源とはなりえないと考える。横系のあり方を再考すれば、立派なお宝創造となり、更なる波及効果が期待できる。
- 自然への回帰願望の高まる中、健康志向旺盛な現代人のための観光事業として、大規模なトレッキング街道の建設を考えることは検討に値する課題であるが、この時、全面的な桜街道の装いを負荷して作り上げれば、魅力ある全国的な話題を構築することになるのではないのでしょうか。
トレッキング回廊プロジェクトは、多方面にわたる大きな波及効果が期待できる。
- 2016年発行の二本松観光協会の“二本松花さんぽ”の観光企画は、二本松全域に散在していた二本松地域の活性化に役立つ見事なお宝の発掘です。どのような横系で連携させるかで、役に立つ観光資源にする事が出来るかの絶好の課題を提供するものです。これを有効に仕上げる事が出来れば、二本松の未来戦略の捉え方や進め方の全容がおのずから明らかになるのではないのでしょうか。当該の命題への対峙の仕方が具体的にはっきりと理解させてくれるものとなるのではないのでしょうか。

「あるもの」から「ないもの」を創造して新しい観光資源につなげる発想

- 東和地区のワイナリー事業は、二本松地区での事業の可能性を立派に立証した確固たる実績事例。
- 更なるシャトーを1～2ヶ所開発して“ワイナリーの二本松”の構想構築の検討。
- 既存の日本酒の郷 二本松と連携して、東西吟醸回廊観光の構想の構築
和洋の食べ歩き回廊の構築の可能性の模索
- 全くの素人の着想ですが、シャトー構想の拡大の過程で、桑畑の再活用
の検討が出来ないか。

外国人移住者に頼らねばならない社会の到来を考えた対応策

- 公立の学びやすい日本語学校のある街づくり。(安価、安全、安心)
日本の人口減対策として外国人労働者の移住が避けて通れないなら、少しでも日本に同化する外国人を育てる仕事が重要であり、国策的課題。
JICAのある都市二本松は、市民挙げて新しい定住人口を創造するプロジェクトとして考えたい。
- 全国規模の学校の併設は、人口増加のための波及効果は絶大。北海道に先駆的実例あり。
- 永住する外国人対象であれば、生活が成り立って安心して日本語が学べるような、学びの仕組みを考える過程に地域の活性化につながるプロジェクトが潜在する。